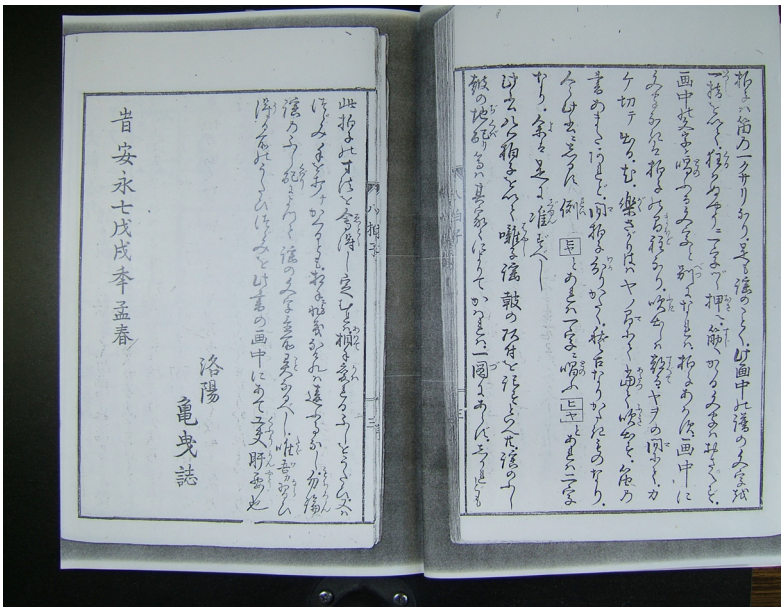
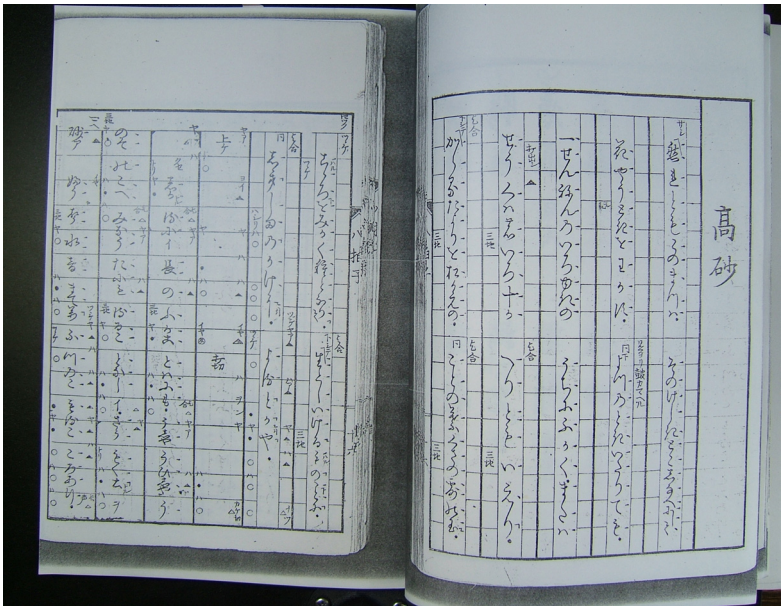
亀曳　『謡曲八拍子』

序文中に、「この画中の譜の文字を一指を以て狂ハぬやうニ一字づつ押へ筋へかゝる文字ハおさへず」とあり、この升目を指で押さえながら謡を歌うよう薦めている。この本の制作意図を窺わせて面白い。升目の利用は、箏曲のジャンル（安永九年成立の『琴曲指譜』、安永八年成立の『箏曲大意抄』）にもみられる。間拍子を明示するシステムが、種目を超えて広がっていたことを窺わせる。そのもとには、十七世紀に成立した、韓国の井間譜等の影響があるのかもしれない。





標題　内　題…―
標題紙…―
奥　附…―
その他…**謡曲八拍子（跋）、八拍子（柱）、謡曲手引　八拍子　上、中（題簽）**

著者　奥　附…―
その他の場所…**亀曳（序）**

出版　版　次…―
出版地…**皇都**
出版社…**村上勘兵衛・菊屋喜兵衛・山本長兵衛・小川五兵衛・堺屋嘉七（刊）**
出版年…―
その他の場所…**跋　安永８（1779）**

形態　冊　数…**三冊**　頁　数…―
寸　法…―

状態　写本版本の別…**版本**　現物複写の別…**複写**

備考　**安永八（一七七九）年　平安山常綱跋。文化二（一八〇五）年再刻（跋）。京都大学図書館所蔵。**